

③ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー

- 日本語: 2人称を3人称化

フランス語: 非人称構文の使用

36. フンのあとしまつは飼い主の義務です

37. *Il est* formellement interdit de monter sur la balustrade.

- 自分と相手を非人称化・非個人化・非人格化する

==> 私 vs あなた の対比を持ち込まないことで、相手の領域に踏み込むことを避け、相手を遠くに置く「回避」「敬避」の

ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー



④ほのめかしストラテジー(オフ・レコード・ストラテジー)

● 日本語:「～する」「～しない」型

38. きっぱり断る。STOP! 20歳未満飲酒

39. 会話をしない

40. 想いをぶつけても。荷物はぶつけない。

41. ちょっと気づかう、そっと見守る



④ほのめかしストラテジー

● 余計に語る

- 42. 動かしたら必ず戻す！ お客様から裏が丸見えです
- 43. トイレ内は禁煙です [省略] 感知器が発報して、
トイレが使えなくなり、他のお客様のご迷惑になります。
- 44. みんなが見ています ゴミ分別のマナー！

● その他のストラテジー

- 45. ついカッとなった。人生、ガラッと変わった。

※ 今回は時間の都合上扱わない



- 人称の制限なし＋直接的な「命令形」を取らないストラテジー

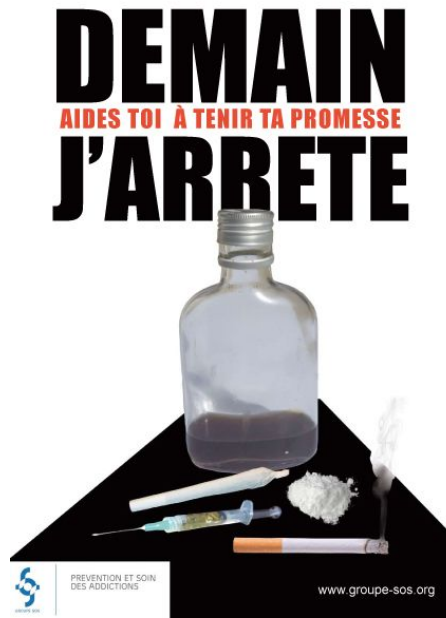
牧原 (1993):「～する」形(辞書形、ル形)の基本的な意味は<述べ立て>(＝叙述)。叙述文は人称制限がないが、<命令>の意味は一定の条件の元、語用論的に派生。文脈に強依存。

⇒聞き手に解釈を委ねる。**ほのめかし(オフ・レコード)・ストラテジー**

● フランス語: 1人称単数主語je を用いる場合

- 46. **Je** monte **Je** valide (Dhorne 2015)
- 47. **Je** monte **Je** valide **Je** recharge
- 48. Au signal sonore, **je** m'éloigne des portes
cf. Préparer ma sortie facilite ma descente
<http://archeologue.over-blog.com/article-27725977.html>
- 49. **Je** respecte mon voisin. **Je** parle moins fort.
Je respecte mon voisin. **Je** baisse le volume.
Je plie ma poussette pour ne pas gêner la circulation dans le bus.
Je respecte mon bus. **Je** ne jette pas mes papiers par terre.





50. *J'aime* mon quartier, *je* ramasse

51. Demain, *j'arrête* (仏非営利組織 Groupe SOS による啓発ポスター)

<https://hhagraphicsdesign.wordpress.com/2012/02/29/concours-daffiche-contre-la-drogue/>

52. Avez-vous soufflé la lumière ? Petits gestes, grands effets, *je* sors, *j'éteins* !

(商工業的公施設法人(EPIC) ADEM による啓発ポスター)

<https://grand-est.ademe.fr/sites/default/files/petits-gestes-grands-effets-a12.pdf>

“Je monte, Je valide”

je を用いて命令することの異質性

- ・話者と動作主が別人(通常の je を用いた文では起こらない)、読み手が読むことで初めて話者と動作主が一致し、そして話者となった読み手は行動する責任を負う(押しつけ的な勧告) (泉 2012)
- ・この文を発話する人はこの言明を引き受ける人であるが、このような掲示に使用された場合の発話者は乗車するという行為の動作主 (潜在的なバスの利用者) を辿ることによってしか特定できない(**injonction déguisée**)。 (Dhorne 2015)

このような命令文の運用の特徴

- ・口頭表現ではこのタイプの命令文は機能しない (泉 2012)
- ・2人称主語を用いると、対話者同士の社会的関係性が前面に押し出されるので、不特定多数の乗客を対象にした掲示の表現としてはふさわしくない。 (Dhorne 2015)

啓発ポスターに見る “je”

53. [=51] Demain, j'arrête 不特定多数の人の為のものではなく、特定の読み手を想定

54. [=52] **je** sors, j'éteins ! je V, je V という表現パターン

==> 元は宣言用の記号(発話者の「意志」を表す表現形式)

書き手としては行動の責任を読み手に転化し、またレトリック的な発話効果を狙いながら用件への直接的な言及を回避している(①そもそも、指示文の定型表現ではなく、②命令の意味は語用論的に産出される)。聞き手もまた、(主語が je であるので)その行為を実行してもしなくてもいずれにせよ自分の領域のことであり **フェイスを侵害されることがない**

命令と感じさせることなく、**社会的距離 (D値) や権力関係 (P値) を背景化し持ち出さない**

当然すべき行為、あるいはすでに指示された行為に用いる

==> 日本語の「～する」と酷似 (cf. 牧原 1993)

ほのめかし(オフレコード)・ストラテジー

考察

行為促進型表現にみられるポライトネス

- 発信者⇨受信者からの指示 ⇨受信者のフェイス侵害の可能性
①受信者フェイスへの補償が可能で、②行為促進の効果のある表現 が選択される。

- 会話における日本語の依頼・指示表現

丁寧度合い

てください < てくれないか・もらえるか（この表現の敬語形式も含む）（谷口 2006、他）

（てくださいますか・ていただけませんか）

- 「公共掲示」: 発信者の匿名性 + 指示内容 + 伝達効果のねらい

⇨対面とは異なる戦略が用いられる。

<各戦略の考察>

① 直言(ボールド・オン・レコード)戦略

53. 車内へ次の物品を持ち込むことを禁止します。

⇨行為促進・指示の意図が明確に提示され、フェイスへの配慮は見られない。

② ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー:

「ありがとうございます」「ましょう」「よう」<-ons 命令形>

「接近」(↔ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー:「回避」)

<指示表現>

公共掲示 ↔ 対面

「接近」

- ・匿名性を利用して、受信者に「接近」し、発信者が受信者を行為に取り込み、双方が共に行為者である形をとり、行為促進を実現しようとする意図

※日本語では、取り込み型表現が頻繁に使用される

⇒「共に行為を遂行する」形を取り、集団主義的な意識に働きかける。

③ ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー(日:3人称主語、仏:非人称構文)

④ オフ・レコード・ストラテジー(日:「する」「します」「しない」、仏:1人称単数主語)

「回避」:指示内容の「押し付け」を最小限に留める意図

・発信者が受信者とある一定の距離を保ち、「押し付け」による不快感を与えまいとする配慮

・「発信者から受信者への指示」の形を取らない。FTA回避

⇒**ほのめかし ストラテジー** :事柄を明示的に伝達することを回避するもの。

ほのめかしストラテジー行使の動機:

①FTAリスクを回避し、②責任回避、③レトリック的な発話効果への期待 (滝浦 2008)

・Je monte Je valide Je recharge 型

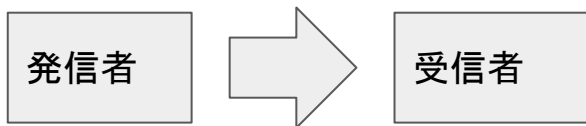
- ⇒ フランス語は日本語と比べると、公共掲示という匿名性のある文脈であっても、発信者から受信者へ「指示をだす」という行為の FTA が高く見積もられると考えられ、指示を明確に示さず、FTA リスクが低いほのめかし戦略が行使されとも言える。
- ⇒ je を用いることで、責任のありかを受信者個々人とし、受信者が責任を持って行為を行うものとして位置付けることで、行為促進の意図を実現しようとしている。
- ⇒ 個人主義的意識に働きかけている。

仮に、フェイスへの配慮ということ、聞き手へが感じる言葉の "柔らかさ/きつさ" のことと置き換えて考えた場合、日常的な感覚では、上のほのめかし表現がストレートな発話意図の表現より柔らかいとは言えないだろう。とくに、皮肉や比喩、多義表現や曖昧表現などでは、すでに明らかな事柄がことさらにぼやかされていることで、かえってとげのある嫌味な表現とを感じる場面もあるはずである

(滝浦 2008)

行為促進型表現にみられるポライトネス

- 発信者の意図として、発信者から受信者へ指示を出すという構図が明確



54. エスカレーターをご利用の際は、必ず手すりにつかまり、立ち止まってください

55. 並ぼう！整列乗車！

56. Merci de laisser les toilettes propres

57. Gardez les toilettes propres

行為促進型表現にみられるポライトネス

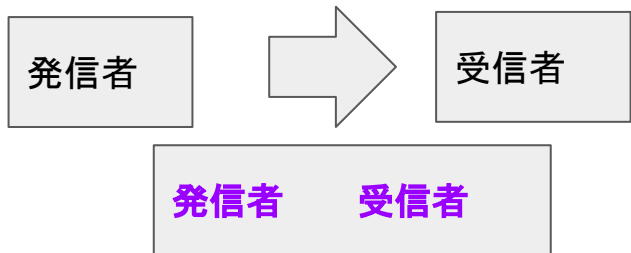
- 発信者の意図として、発信者から受信者へ指示を出すと言う構図が明確ではないもの

フランス語

Je monte Je valide Je recharge ⇒ 1人称

日本語

「～する」「しない」型 ⇒ 1人称 ↔ 文脈により2人称と読み込み可



- ・日本語の方がより受信者の解釈に委ねる意図が色濃く出ている。

まとめと今後の課題

まとめと今後の課題

まとめ

- ・「揭示」という文脈固有の言語使用
- ・日本語は、「ネガティブ・ポライトネス文化」(滝浦 2008)
 - R要因(ex; 物の貸し借り・頼み事のしやすさ)に関して、日本社会と西洋社会における重みが異なり、日本社会の方が深刻なものとして捉えられがちである。(滝浦 2008)
 - ↔上記のように日本語にはネガティブ・ポライトネスを戦略として採用するという認識が強いが、実際にはそうとも言えない例も多い
- ・フランス語は西洋言語という括りにおいてポジティブ・ポライトネスを採用しやすい言語と言われているが、行為促進型表現においては、日本語と非常に類似した形での配慮の段階性が認められた。

課題

- ・今回分析ができなかった表現についての検討
- ・場所（公共交通機関、トイレ、公園、ゴミステーションなど）や指示の種類（要請、お願い、禁止、啓発など）による表現の使い分けの計量的調査と採用する戦略の関係性
- ・戦略をラベリングする際の妥当性の検討
- ・広告文との比較

cf. 広告に使われている nous と on

Ensemble, **nous** allons conquérir le monde

On parie que vous allez aimer faire du sport ?

On aime beaucoup et vous ? – Réservez encore plus sur Fnacspectacles.com - Je n'aime pas le classique, mais avec GASPARD PROUST j'aime bien !

参考文献

- バックハウス・ペーター (2005)「日本の多言語景観」真田信治・庄司博史(編)『辞典 日本の多言語社会』, 53-56, 岩波書店.
- Bayne, K. (2018) “Manner Posters as an Element of the Japanese Linguistic Landscape”『清泉女子大学人文科学研究紀要』 39, 140-113 (61-88).
- Brown, P. & S. C. Levinson (1987), *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge university press.
- Dhorne, F. (2015), “Je monte, je valide ou l'énonciateur-fantôme”『フランス語学研究』 49, 65-85.
- Goffman, E. (1967), *Interaction ritual: Essays on face-to-face interaction*. Garden City, NY: Doubleday Anchor.
- 姫野伴子 (2008)「行為指示表現に対する母語話者と学習者の適切性判断」『明治大学国際日本学研究』1(1), 57-73.
- 本田弘之, 岩田一成, 倉林秀男 (2017)『街の公共サインを点検する 外国人にはどう見えるか』大修館書店.
- 庵功雄他 (2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 泉邦寿 (2012)「一人称のトリック的用法について」喜田浩平(編)『川口順二教授退任記念論集web版』, HAL Archives-ouvertes.fr. 61-67.
- 金順任 (2011)「日本語と韓国語の言語景観における禁止表現一場所による違いを中心に一」『明海日本語』16, 53-62.
- 岸江信介 (2011)「看板・表示物にみられる禁止表現の言語景観」『世界の言語景観 日本の言語景観一景色のなかのことば』桂書房, 218-226.
- 江源 (2011)「言語景観に関する計量的研究」『明海日本語』16, 71-80.
- ロング・ダニエル (2014)「非母語話者からみた日本語の看板の語用論的問題—日本語教育における「言語景観」の応用」『首都大学東京人文学報』488, 1-22.
- ロング・ダニエル (2018)「日本語表現法における言語学的課題の分類を考えるツールとしての言語景観の応用について」『首都大学東京教職課程紀要』2, 51-64.

- 牧原功 (1993)「～スル形の指示表現への転用 一命令形との意味の接近とその用法差をめぐって」『言語学論叢』12, 51-64.
- 三牧陽子 (2013)『ポライトネスの談話分析―初対面コミュニケーションの姿としくみ―』くろしお出版.
- 峰正志 (2008)「交通標識における日本語の「ほのめかし」表現」『金沢大学留学生センター紀要』11, 23-34.
- 仁田義雄 (1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房.
- 尾上圭介 (1979)「そこにすわる!―表現の構造と文法―」『言語』8(5), 大修館書店, 20-24.
- 大石太郎 (2008)「カナダ, ノヴァスコシア州農村地域の言語景観」『学芸地理』63, 12-22.
- 曾我祐典 (1995)「フランス語待遇表現使用の事例」『人文論究』45(1), 88-98.
- 鈴木孝夫 (1973)『ことばと文化』岩波書店.
- 高木千恵 (2011)「大阪府下の公的掲示物にみる言語景観のローカル化」『世界の言語景観 日本の言語景観―景色のなかのことば』桂書房, 191-199.
- 滝浦真人 (2008)『ポライトネス入門』研究社.
- 谷口龍子 (2006)「日本語と中国語の依頼の丁寧度」『社会科学ジャーナル』, 393-408.
- 宇佐美まゆみ (2001)「談話のポライトネス―ポライトネスの談話理論構想」国立国語研究所編『談話のポライトネス』国立国語研究所, 9-58.
- 山田敏弘 (2011)「ロマンス語圏少数言語地域の言語景観」『世界の言語景観 日本の言語景観―景色のなかのことば』桂書房, 13-23.
- 山森良枝 (2010)「てある・ておく構文について」『神戸言語学論叢』7, 107-120.